

日本の主な火山活動

噴火した火山は、桜島、諏訪之瀬島の 2 火山で、従来からの山頂噴火が継続した。

三宅島の火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は、長期的には減少傾向にあるが、最近 1 年あまりは日量 3 千～ 1 万トン程度と概ね横ばい傾向になっている。

阿蘇山では規模の大きい土砂噴出が発生した。

霧島山（御鉢）の浅部の熱的な活動は徐々に収まってきた。

以下、噴火した火山（ ）や観測データ等に変化のあった火山（ ）の主なものについて、活動の解説を示す。

また、末尾に資料として、期間中に発表した火山情報の一覧表及び 1 月 27 日に開催された第 97 回火山噴火予知連絡会のコメントや統一見解を掲載する。

表 1 過去 1 年間に活動があった火山等

火 山 名	平成15年（2003年）												H16 1月
	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月		
浅間山	ハル記号												
伊豆大島	ハル記号												
阿蘇山	ハル記号												
雲仙岳	ハル記号												
桜島	ハル記号												
雌阿寒岳													
十勝岳													
樽前山													
北海道駒ヶ岳													
吾妻山													
富士山													
伊豆東部火山群													
三宅島													
伊豆鳥島													
噴火浅根													
福岡ノ場													
霧島山													
薩摩硫黄島													
口永良部島													
諏訪之瀬島													

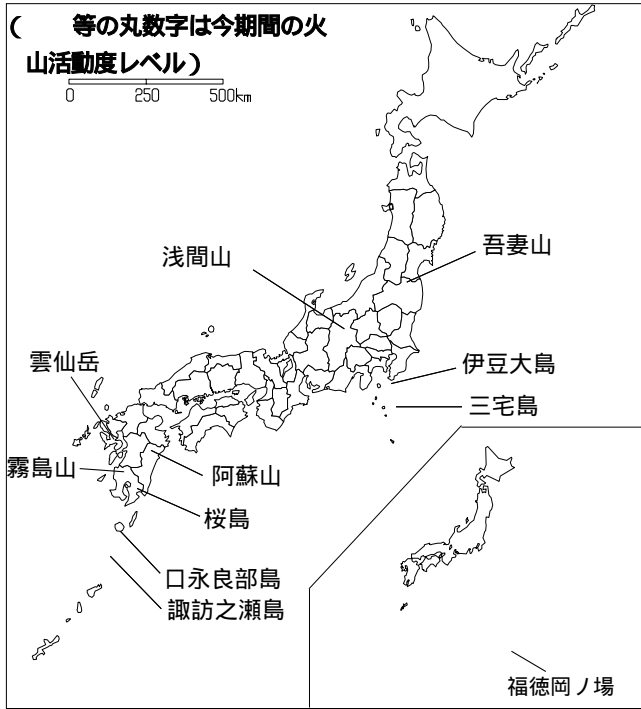


図 1 今回記事を掲載した火山

各火山の活動解説

火山名の後の [噴火・爆発・噴煙・噴気・地震・微動・空振・地殻変動・熱・火山ガス等] は、掲載した理由となった火山現象を示す。

【噴火した火山】

桜島 [爆発・噴石・空振・噴煙・地震]

火山活動度レベルは 2（比較的静穏な火山活動）であった。

噴火は 1 月 12 日の 1 回で、桜島としては比較的静穏な火山活動であった。この噴火は爆発で、少量の噴石が 8 合目まで飛散し、鹿児島地方気象台（南岳の西

南西約 11km）では誰にでも感じる程度の空振を観測した。この爆発による噴煙の状況は、中量の灰白色の噴煙が火口縁上 800m まで上がったところで雲に入ったため、高さの最高は不明である。なお、鹿児島地方気象台では降灰はなかった（同気象台では 2003 年 11 月 19 日を最後に降灰は観測されていない）。

地震は総じて少ない状態であったが、2003 年 12 月末から 1 月上旬に、桜島南西岸から沖合にかけての深さ 5～9 km を震源とする A 型地震が多くなった。桜島では、A 型地震が多発した後しばらくして噴火活動が活発化する事例（例えば 1973 年、1994 年など）があり、今後火山活動が活発化する可能性もある。

諏訪之瀬島 [爆発・降灰・微動]

小規模な山頂噴火が継続した。

1月2日～7日、20日～23日に噴火があり、うち爆発が7回発生した。十島村役場諏訪之瀬島出張所によると、1月6日の夜に島内の集落（御岳の南南西約4km）で降灰があった。

連続微動もしばしば発生しており、やや活発な火山活動が続いている。

【観測データ等に変化があった火山】

吾妻山 [地震]

2003年12月以降、微小な地震が増加傾向であったが、1月9日～17日、1月22日～30日にさらに増加し、特に1月23日には日回数126回と一時多発した（図2）。震源は吾妻山北西部の一切経山いっさいきょうざん付近の浅いところであった。

吾妻山では、1998年6月以降、地震が一時的に多発する活動が繰り返し発生しており、今回の活動もその一つとみられる。

浅間山 [地震・微動・熱]

火山活動度レベルは2（やや活発な火山活動）であった。

地震活動は、2000年9月以降、微小な地震の発生回数がやや多い状態が続いている。特に2003年6月末頃からは回数がさらに多くなっており、今期間の1日当たりの回数は30～70回程度、月回数は1,565回であった（前期間は1,203回）。

また、2003年4月以降、微動の発生回数が多い状

態にあり、今期間の月回数は6回であった（前期間は10回）。いずれの微動も、振幅が小さく、継続時間が短い規模の小さいものであり、これらの発生に伴い噴煙活動等に変化はなかった。

山頂火口内の噴気孔周辺では、2002年6月の活動活発化以降、群馬県林務部が火口縁に設置している赤外カメラにより高温部が確認されてきたが、高温部の面積は徐々に縮小してきている。また、噴煙活動も、1998年～2000年頃の落ち着いた状態に戻りつつある。

三宅島 [噴煙・火山ガス・熱・地震]

地震活動、地殻変動、山体の熱的な状態などに、火山活動の活発化を示す特段の変化はみられない。火山ガスの放出量は、長期的には減少しているものの、依然多量の二酸化硫黄の放出が続いている。

噴煙活動は引き続き活発で、白色の噴煙が山頂火口から連続的に噴出した。期間中の噴煙の高さの最高は、火口縁上1,200mであった（前期間の最高は1,000m）。上空からの観測¹⁾では、火山ガスを含む青白い噴煙が火口上空から風下に流れているのが確認され、二酸化硫黄の放出量は日量2,800～14,000トンと依然多い状態にある（図3）。

山頂火口内の噴気孔周辺の温度は、赤外熱映像装置による観測¹⁾では最高229（前期間の最高は220）と長期的には低下しているものの依然として高い状態にあった。また、磁力の連続観測では特に変化はみられず、地下の熱的な状態に大きな変化はないものと考えられる。

山頂直下の地震活動は、やや低周波の地震が2003年4月以降多い状態で推移しているが、これに関係してその他の観測データに特段の変化はない。

1) 1月6日、20日に、航空自衛隊、東京消防庁の協力により、気象庁、産業技術総合研究所及び大学合同観測班が実施。

福徳岡ノ場 [変色水]

1月26日13時45分～14時05分に海上保安庁第三管区海上保安本部が行った上空からの調査によると、福徳岡ノ場付近の海面に、最大幅約150mで、西北西の方向

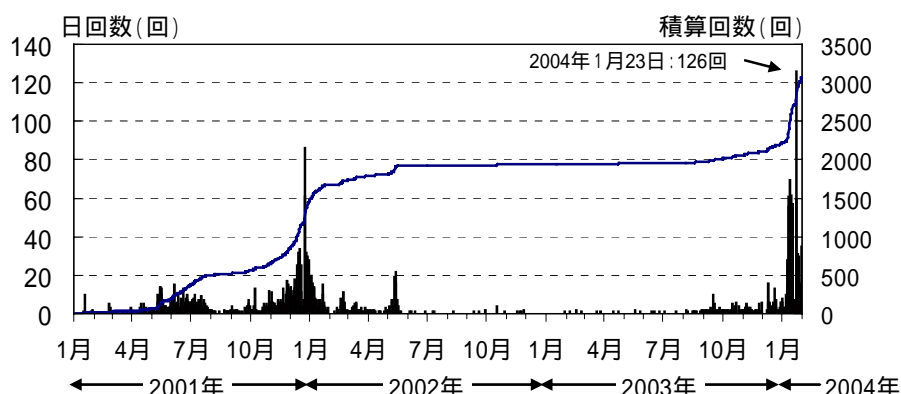


図2 吾妻山 地震の日回数（折れ線は積算回数）
（2001年1月～2004年1月）

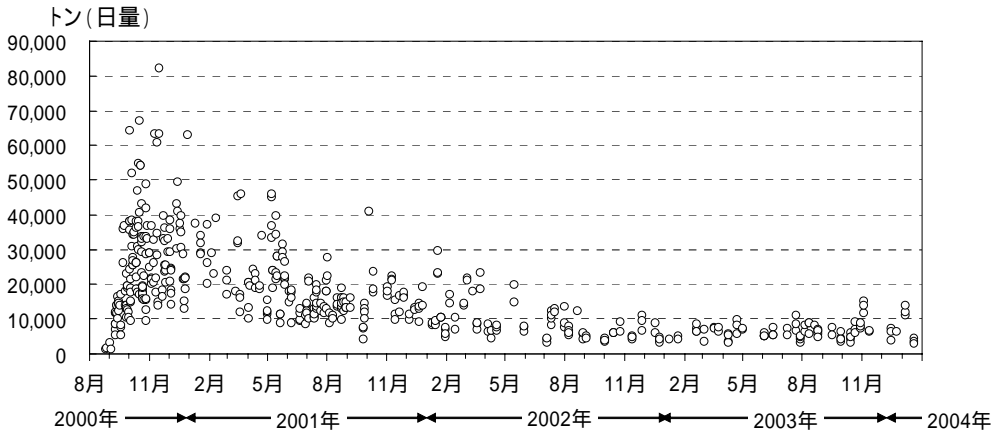


図3 三宅島 二酸化硫黄の放出量（日量に換算）（2000年8月～2004年1月）、最盛期の2000年秋～冬にかけては日量5万トンを超えることもあった。2001年以降は長期的には低下傾向が続いているが、2002年秋以降の1年あまりは日量3千～1万トンでほぼ横ばいとなっている。

に約1km 延びる、帯状の薄い黄緑色の変色水が確認された。軽石等の浮遊物等は無かった。変色水の確認は2003年12月29日以来である。

阿蘇山 [土砂噴出・熱・微動・地震]

規模の大きな土砂噴出が発生し、火山活動度レベルは2（やや活発な火山活動）から3（小規模な噴火の可能性）に上昇した。

1月14日15時41分頃、中岳第一火口で規模の大きい土砂噴出が発生した。同時に白色噴煙の噴出が強まり、一時火口縁上800mまで上がるのが観測された。また、継続時間37秒のやや振幅の大きい微動が発生した。規模の大きい土砂噴出の発生は2003年7月10日以来である。

当日及び翌15日に行った現地観測や、15日に九州地方整備局の協力で行った上空からの観測によると、中岳第一火口の湯だまりは黒灰色に変色し、湯だまりから高さ約5mの土砂噴出が断続的に発生していた。火口壁の全面には黒色の噴出物が付着しており、火口縁の南東及び南西方向の積雪も噴出物により黒く変色していた（図4）。また、中岳第一火口の東南東約8kmの阿蘇郡高森町上色見地区で微量の降灰を確認した。

火口縁の変色が2方向にあり、南東側は広範囲が淡く、南西側は狭い範囲が濃いのは、土砂噴出が南西方向に最も強く噴き出し、当時強く吹いていた西北西の風により火山灰が東南東方向に流されたためと考えら

れるが、詳細は不明である。

中岳第一火口の湯だまり²⁾の状況は、1月14日の規模の大きい土砂噴出の前後で特に大きな変化はなく、湯だまりの表面温度は赤外カメラによる観測で80程度と、依然として高い値で推移している。湯だまり量は、熱活動の高まりを反映して2003年6月以降減少を続け、1月4日以降は約4割になっている。

噴煙の状況は、月間を通して白色で、噴煙の高さは規模の大きい土砂噴出直後の火口縁上800mを除くと300～500

mで、通常と比べ変化はなかった。

微動の発生状況については、連続微動は観測されなかったが、孤立型微動は2003年9月から多発しており今期間の回数は7,777回であった（前期間は5,869回）。

その他、地震活動は低調で、GPSによる地殻変動観測では、火山活動に起因する変化はみられなかった。

2) 湯だまり：活動静穏期中岳第一火口内には、地下水などを起源とする約50～60の緑色のお湯がたまっており、これ



図4 阿蘇山 1月14日に発生した規模の大きい土砂噴出の翌日の中岳第一火口の状況（九州地方整備局の協力により撮影）。火口壁全面及び火口縁の南東側と南西側（白丸で囲った部分）が噴出物により黒く変色している。

を湯だまりと呼んでいる。火山活動が活発化するにつれ、湯だまり温度が上昇・噴湯して湯量の減少がみられ、その過程で土砂を噴き上げる土砂噴出現象等が起り始めることが知られている。

霧島山 [噴気・微動・地震]

御鉢おはちの噴気活動は、消長を繰り返しながら収まってきた。

御鉢では、2003 年 12 月 12 日に継続時間が 40 分³⁾と長い微動が発生し、噴気活動が活発化した。また、微小な地震がやや多くなった。

その後、噴気は 12 月 18 日に火口縁上 300m まで上がったのを最高に収まる傾向がみられ、地震の発生回数も少なくなっていたが、1 月 3 日に継続時間³⁾が 55 分と長い微動が発生し（図 5）、一時的に噴気及び地震の活動が再活発化するなど、火山活動は消長を繰り返した。

しかし、1 月下旬には、噴気が火口縁を越える頻度は少なくなり、地震活動も低調になった。

GPS 観測による広域の地殻変動の状況や、全磁力観測による地下の熱的な状態から、マグマの上昇等の顕著な火山活動の兆候はみられない。

なお、新燃岳付近の火山活動は静穏な状態であった。

3) 東京大学地震研究所の高千穂西観測点における観測。

口永良部島 [地震・微動]

地震が引き続きやや多い状態で、微動も時折発生した。

微小な地震の活動が 1999 年 7 月～2000 年 3 月に活発化し、その後は少なくなっていたが、2003 年 2 月以降やや多い状態で推移している。今期間の地震の月回数は 164 回であった（前期間は 119 回、以上図 6）。

また、2003 年 2 月以降に観測されるようになった微動が、今期間は 2 回発生した（前期間は 4 回）。

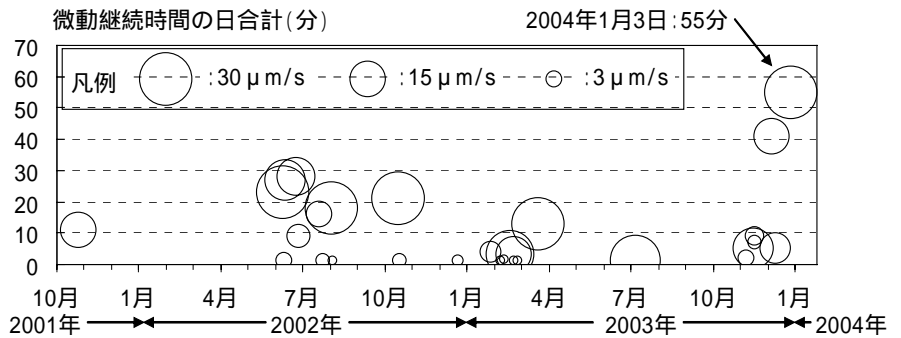


図 5 霧島山おはち 御鉢付近を震源とする微動の継続時間と最大振幅（南北成分）（2001 年 10 月～2004 年 1 月、東京大学地震研究所が高千穂西観測点に設置した地震計のデータによる）。

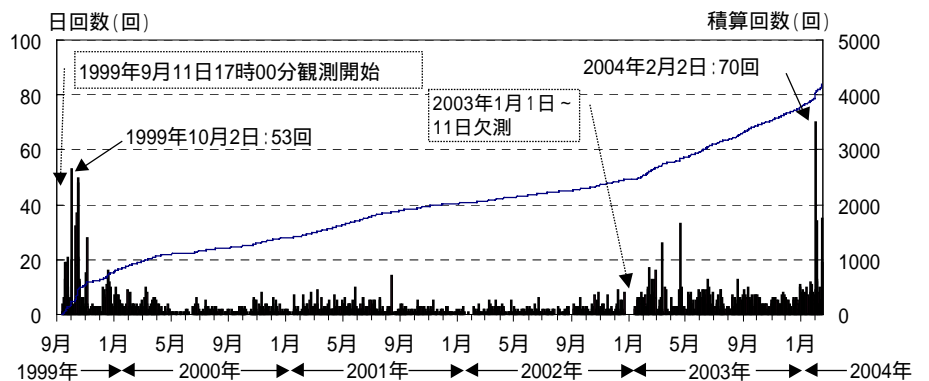


図 6 口永良部島 地震の日回数（折れ線は積算回数）（1999 年 9 月 11 日～2004 年 2 月 16 日）

なお、期間外の 2 月 2 日に地震が多発し、その後、微動も多くなっている。

上屋久町役場口永良部島出張所しんだけ ぶるだけによると、これらの地震や微動の活動に関係して、新岳や古岳の噴気活動などに特に変化は見られていない。また、2 月 3 日に鹿児島県の協力により行った上空からの観測でも、山頂周辺の地熱の状況に特に変化はなく、噴気は白色・少量で通常と変わらず、新たな噴気の発生もなかった。

【その他】

伊豆大島、雲仙岳

火山活動度レベルは 1（静穏な火山活動）であった。

地震活動、噴煙活動ともに静穏で、地殻変動等のその他の観測データにも異常な変化はなく、火山活動は落ち着いた状態が続いた。

資料 1 2004 年 1 月の火山情報発表状況

火山名	情報の種類と号数	発表日時	概要
吾妻山	火山観測情報第 1 号	23 日 14 時 00 分	地震回数が多い状態。
	火山観測情報第 2 号	27 日 17 時 30 分	第 97 回火山噴火予知連絡会の検討結果。引き続き地震回数が多い状態。
三宅島	火山観測情報第 1 号 (1 日 1 回発表)	1 日 16 時 30 分	活動経過ほか(噴煙・地震・微動・空振・火山ガス・地殻変動の状況、上空からの観測結果、及び上空の風・火山ガスの移動予想)。 第 51 号は第 97 回火山噴火予知連絡会の統一見解。
	火山観測情報第 4 号	4 日 16 時 30 分	
	火山観測情報第 5 号 (1 日 2 回発表)	5 日 09 時 30 分	
	火山観測情報第 50 号	27 日 16 時 30 分	
	火山観測情報第 51 号	27 日 17 時 30 分	
	火山観測情報第 52 号 (1 日 2 回発表)	28 日 09 時 30 分	
	火山観測情報第 59 号	31 日 16 時 30 分	
阿蘇山	火山観測情報第 1 号	5 日 14 時 45 分	火山活動がやや活発(孤立型微動が多い状態、湯だまり温度が高く湯量の減少が継続)。火山活動度レベルは 2。
	火山観測情報第 2 号	9 日 13 時 00 分	規模の大きい土砂噴出発生。火山活動度レベルは 3 (小規模噴火の可能性) に上昇。
	臨時火山情報第 1 号	14 日 15 時 57 分	
	火山観測情報第 3 号	14 日 17 時 08 分	火口内の状況、噴出物の状況。孤立型微動が多い状態。火山活動が活発で、火山活動度レベルは 3。
	火山観測情報第 4 号	15 日 17 時 35 分	
	火山観測情報第 5 号	16 日 15 時 00 分	
	火山観測情報第 6 号	19 日 13 時 40 分	
	火山観測情報第 7 号	23 日 11 時 15 分	火山活動が活発(孤立型微動が多い状態)。火山活動度レベルは 3。
	火山観測情報第 8 号	26 日 13 時 00 分	第 9 号は第 97 回火山噴火予知連絡会の検討結果(今後、噴石を火口外に飛ばすような噴火の可能性もある)。
	火山観測情報第 9 号	27 日 18 時 20 分	
火山観測情報第 10 号	30 日 11 時 40 分		
霧島山	火山観測情報第 1 号	2 日 15 時 00 分	地震は少ない状態、噴気は確認されない。
	火山観測情報第 2 号	3 日 13 時 00 分	御鉢付近で継続時間の長い微動発生、噴気活動及び地震活動が再び活発。
	火山観測情報第 3 号	5 日 15 時 20 分	
	火山観測情報第 4 号	9 日 15 時 00 分	
	火山観測情報第 5 号	13 日 15 時 00 分	御鉢の火山活動(噴気活動、地震活動)は消長を繰り返して継続
	火山観測情報第 6 号	16 日 15 時 00 分	
	火山観測情報第 7 号	19 日 14 時 00 分	御鉢の火山活動(噴気活動、地震活動)は消長を繰り返しながらやや収まる。
	火山観測情報第 8 号	23 日 15 時 00 分	
	火山観測情報第 9 号	26 日 15 時 00 分	
	火山観測情報第 10 号	30 日 15 時 00 分	

資料 2 第 97 回火山噴火予知連絡会コメント及び統一見解

平成 16 年 1 月 27 日、第 97 回火山噴火予知連絡会が開催され、同連絡会は、最近の全国の火山活動について委員及び関係機関からの報告をもとに取りまとめ、終了後、気象庁から以下のとおり発表した。

第 97 回火山噴火予知連絡会 全国の火山活動について

三宅島では、依然として山頂火口から二酸化硫黄を含む火山ガスが放出されています。別紙のとおり統一見解を発表しました。

阿蘇山では、1 月 14 日に中岳第一火口から規模の大きな土砂噴出が発生し、火山活動が活発になっております。今後、噴石を火口外に飛ばすような噴火の可能性もあります。

霧島山では、御鉢火口で新しい噴気孔が形成されました。現在の活動は収まってきていますが、再び活発化する恐れがあります。

全国の火山活動状況は以下のとおりです。

1. 北海道地方

1) 雌阿寒岳

- ・地震活動は最近 2～3 ヶ月は静穏に経過しましたが、2000 年後半以降一時的な地震の増減を繰り返しながらやや活発な状態が続いています。
- ・ボンマチネシリ 96-1 火口は 2000 年以降噴煙活動がやや弱まり、火口温度もやや低下しましたが、現在も 400 前後の高温を維持していると推定されます。
- ・以上のことから、現在も火山活動はやや活発な状態が続いていると考えられます。

2) 十勝岳

- ・地震活動は、1999 年後半以降顕著な地震増加は見られず、静穏に経過しました。
- ・62-2 火口は噴煙量や火口温度が最近 2～3 年やや低下傾向にありますが、噴煙活動は依然活発で火口温度も 300 以上と高温状態が続いていると

推定されます。

- ・以上のことから、火山活動は現在もやや活発な状態が続いていると考えられます。なお、火口直下の増圧によると考えられる地殻変動は観測されていません。

3) 樽前山

- ・地震活動は 1996 年以降一時的な地震の増減を繰り返しながら活発な状態が続いています。1999 年には熱活動も高まり、その状態は現在も続いています。
- ・A 火口および B 噴気孔群では 2003 年 10 月に噴煙活動が活発化して火口温度も上昇しました。その後、B 噴気孔群の噴煙量は 12 月以降やや減少しました。また、高感度カメラで B 噴気孔群が夜間明るく見える現象は 10 月 18 日を最後に観測されていません。
- ・9 月下旬に山頂部の常時微動レベルが増大しましたが、その後は徐々にレベルを低下させる傾向にあります。
- ・山頂部のわずかな膨張は、2003 年 10 月以降認められていません。
- ・以上のように、火山活動は最近わずかに低下する傾向が見られるものの、A 火口および B 噴気孔群では依然として活発な状態が続いています。

4) 有珠山

- ・火山活動に特別な変化はなく、静穏に経過しました。

5) 北海道駒ヶ岳

- ・地殻変動は 1997 年の観測開始以降、継続してわずかながら山体膨張の傾向を示しています。
- ・2000 年噴火活動後の熱活動は全体として低下していますが、2003 年 9 月以降、昭和 4 年火口と 96 年南火口列の弱い噴気がしばしば観測されています。
- ・北海道駒ヶ岳では 1996 年から 2000 年までの間に 6 回の小噴火が発生しており、噴火発生の数年前に小噴火を繰り返した 1929 年大噴火や 1942 年中噴火の前の状況と類似しています。なお、地震活動には特段の変化はなく、静穏に経過しました。

2. 東北地方

1) 岩手山

- ・西岩手山での噴気活動と東岩手山山腹下のやや深い低周波地震が続いているものの、火山活動は穏やかに経過しました。
- 2) 秋田駒ヶ岳
 - ・火山活動に特別な変化はなく、穏やかに経過しました。
 - 3) 吾妻山
 - ・火山活動は 12 月以降やや活発化しています。
 - ・2003 年 12 月以降、一切経山付近で微小地震の活動が活発化しています。1 月 9 日～17 日、22 日～23 日に更に増加しました。
 - ・噴気活動や地殻変動に変化はありません。
 - ・今回の地震活動は、1998 年 6 月以降繰り返し観測されている一切経付近における一連の群発地震活動の 1 つと考えられます。
 - 4) 安達太良山
 - ・火山活動に特別な変化はなく、静穏に経過しました。
 - 5) 磐梯山
 - ・火山活動に特別な変化はなく、静穏に経過しました。

3. 関東・中部地方

- 1) 那須岳
 - ・火山活動に特別な変化はなく、静穏に経過しました。
- 2) 草津白根山
 - ・地震活動は静穏な状態が続きましたが、熱活動、化学組成には若干の変化が見られます。
- 3) 浅間山【火山活動度レベル 2 (やや活発な火山活動)】
 - ・地震活動は、最近若干減少傾向ですが、2000 年 9 月からの活発な状態が続いています。
 - ・今後も火口周辺に降灰をもたらす程度の、小規模な噴火が発生する可能性があります。活動はやや低下する傾向も見られます。
- 4) 焼岳
 - ・火山活動に特別な変化はなく、静穏に経過しました。
- 5) 御嶽山
 - ・火山活動に特別な変化はなく、静穏に経過しました。

- 6) 富士山
 - ・火山活動に特別な変化はなく、静穏に経過しました。
 - ・東北東山腹で 2003 年 9 月に確認された地面の陥没とごく弱い噴気は、その後、温度等のデータに大きな変化は見られません。また、地震活動、地殻変動等のデータにも異常な変化が見られないことから、噴火活動に直接繋がる現象ではないと思われる。
- 7) 伊豆東部火山群
 - ・火山活動に特別な変化はなく、静穏に経過しました。
- 8) 伊豆大島【火山活動度レベル 1 (静穏な火山活動)】
 - ・長期的には、島の膨張傾向、火口下の帯磁傾向が継続していますが、2003 年以降、やや鈍化しています。2003 年は地震活動も低調に推移しました。
- 9) 三宅島
 - ・別紙のとおり統一見解を発表しました。
- 10) 八丈島
 - ・火山活動に特別な変化はなく、静穏に経過しました。
- 11) 硫黄島
 - ・地震活動は比較的静穏ですが、地殻変動は進行しています。

4. 九州地方

- 1) 九重山
 - ・1995 年 10 月の噴火で生成した火孔群の噴煙活動は弱まり、火山活動は静穏に経過しました。
- 2) 阿蘇山【火山活動度レベル 2 (やや活発な火山活動) 3 (小規模噴火の可能性)】
 - ・2004 年 1 月 14 日 15 時 41 分頃に規模の大きな土砂噴出が発生しました。土砂噴出に伴う降灰は、火口から東南東約 8 km まで分布し、少量の新鮮なガラス片が含まれていました。翌日に実施した観測によると、中岳第一火口壁には、黒色の噴出物が付着していました。また、湯だまりは黒灰色に変色し、高さ約 5 m の土砂噴出が断続的に発生していました。
 - ・なお、2003 年には、地下深部に原因があると思われるわずかな膨張が GPS で観測されました。
 - ・孤立型微動及び火山性地震の増加、湯だまり温度

の上昇、湯だまりが変色するなど、火山活動は活発化しています。

- ・ 今後、噴石を火口外に飛ばすような噴火の可能性もあります。

3) 雲仙岳【火山活動度レベル 1 (静穏な火山活動)】

- ・ 火山活動に特別の変化はなく、静穏に経過しました。

4) 霧島山

- ・ 新燃岳付近の火山活動は、静穏な状態で経過しました。
- ・ 御鉢付近の火山活動は 2003 年 10 月までは静穏な状態で経過していましたが、11 月より火山性微動を観測し、12 月は火山性微動発生後、火山性地震もやや多い状態となり、さらに御鉢火口内に新しい噴気孔が 2 ヶ所形成されました。また、火山性微動に対応する傾斜変動も観測されるなど、火山活動がやや活発になりました。
- ・ 現在の活動は収まってきていますが、中長期的には活動が活発化する恐れもあります。火口内および火口周辺では注意が必要です。

5) 桜島【火山活動度レベル 2 (比較的静穏な噴火活動)】

- ・ 桜島南岳は引き続き山頂噴火を繰り返しましたが、桜島の活動としては比較的静穏な状態が続きました。10 月から 1 月 25 日までの噴火回数は 7 回、うち爆発的噴火は 4 回でした。
- ・ 火山性地震、火山性微動は総じて少ない状態で経過しましたが、桜島の南西沖を震源とする A 型地震が増加しました。

6) 薩摩硫黄島

- ・ 10 月に 2 回噴火しました。
- ・ 連続した火山性微動が 10 月と 11 月に発生するなど、火山活動はやや活発な状態でしたが、12 月以降は穏やかな状態が続いています。

7) 口永良部島

- ・ 火山性地震の発生回数に目立った増加は見られませんでした。時折、火山性微動が発生するなど、火山活動はやや活発な状態となっています。

8) 諏訪之瀬島

- ・ 10 月から 1 月 19 日までに爆発的噴火が 14 回発生し、火山灰混じりの噴煙と降灰が、時折確認されるなど、火山活動はやや活発な状態となってい

ます。

5 . 海底火山

- ・ 福岡ノ場では、変色水が度々観測された。

平成 16 年 1 月 27 日
気 象 庁

三宅島の火山活動に関する
火山噴火予知連絡会統一見解

三宅島の火山活動は、全体としてゆっくりと低下してきていますが、2002（平成 14）年から 2003（平成 15）年にかけて地下深部からのマグマ供給の一時的な増加に対応すると思われる地殻変動が見られるなど短期的には揺らぎがあります。最近 1 年あまり火山ガス放出量はほぼ横ばいとなっており、火山ガスの放出は当分の間継続する可能性もあります。

三宅島の山頂火口からの噴煙高度及び火山ガスの放出量は長期的には低下してきています。そのうち、二酸化硫黄についても、放出量はゆっくりと減少してきましたが、最近 1 年あまりは、1 日あたり 3 千～1 万トン程度と概ね横ばい傾向となっています。火山ガスの組成に顕著な変化は依然認められず、マグマ中のガス成分濃度や脱ガスの条件などに大きな変化はないと考えられます。放熱率も最近 1 年半程度顕著な変動は認められず、ほぼ同じ水準を維持しています。

火山灰の放出を伴う噴火は 2002（平成 14）年 11 月 24 日の小噴火以来観測されていません。

全磁力観測からは、山頂火口直下の温度は 2002（平成 14）年夏以降長期的に低下していることが推定されます。火口内の表面温度も、長期的に低下しています。

連続的に発生している火山性微動の振幅は長期的には小さくなっています。山頂直下の火山性地震の活動は継続しています。

活動の開始以来観測されてきた三宅島の収縮を示す地殻変動は、2002（平成 14）年 8 月頃から停止していましたが、2003（平成 15）年 6 月頃から再び収縮傾向となっています。2002（平成 14）年 8 月頃から 2003（平成 15）年 6 月頃までの収縮の停止は、地下深部からのマグマの供給の一時的な増加に伴うものと推定

されます。

以上のように、三宅島の火山活動は、全体としてゆっくりと低下してきていますが、三宅島の収縮傾向に一時的な変動が見られるなど短期的には揺らぎがあります。また、最近 1 年あまり火山ガス放出量はほぼ横ばいとなっております。

三宅島では、今後も局所的に高い二酸化硫黄濃度が観測されることもありますので、風下に当たる地区では引き続き火山ガスに対する警戒が必要です。また、雨による泥流にも引き続き注意が必要です。